



# Cost-effectiveness analysis of the national decentralization policy of antiretroviral treatment programme in Zambia

著者名	宮野 真輔
発行年	2017-09-15
URL	<a href="http://doi.org/10.20780/00032179">http://doi.org/10.20780/00032179</a>

# 主論文の要旨

Cost-effectiveness analysis of the national decentralization policy of antiretroviral treatment programme in Zambia

ザンビア共和国における抗レトロウィルス治療プログラムの地方展開国家政策に関する費用対効果分析

東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室  
(指導：杉下 智彦 教授)  
宮野 真輔

Cost Effectiveness and Resource Allocation 第 15 巻 第 4 号 (平成 29 年 4 月 12 日発行) に掲載

## 【要 旨】

本研究ではザンビア共和国における ART (抗レトロウィルス治療) プログラムの地方展開国家政策を費用対効果分析を用い、その有効性を経済学的に評価した。第二次、三次医療施設で ART サービスが提供される「既存プログラム」と、さらにそれを第一次医療施設までその提供を拡大した「介入プログラム」について、患者一人あたりの年間コストは既存モデルで 1, 259.16 米ドル、介入モデルで 2, 601.02 米ドルで、得られる質調整生存年はそれぞれ 6.81 年、7.27 年であった。増分費用効果費は 1 質調整生存年あたり 2, 965.17 米ドルと算出され、介入モデルは既存モデルと比較して費用対効果が高いと推測された。

本研究はザンビア共和国において 2010 年から開始された ART プログラム地方展開国家政策を経済的側面から評価をした初めての研究であり、他のサブサハラアフリカでも同様の研究が行われているが、より HIV 罹患率が高いザンビア共和国で本研究が行われたインパクトは大きい。このモデルが他地域へ拡大されることで、より効果的かつ効率的な HIV エイズ対策が推進できると期待された。